

平成30年度 白井市市民団体活動支援補助金
公開成果報告会 会議録

- 1 開催日時 令和元年5月31日（金）午後2時15分～午後3時25分
- 2 開催場所 白井市役所 東庁舎1階
しろい市民まちづくりサポートセンター 多目的スペース
- 3 出席者 関口宏聡委員長、清水洋行副委員長、黒添誠委員、大田茂子委員、
迫田妙子委員、吉井信行委員、秋本紀子委員、五十君みつる委員、
浅海仁美委員（名簿順）
- 4 欠席者 福留委員、渡辺真巨委員
- 5 事務局 岡田課長、松岡係長、長谷川主事
しろい市民まちづくりサポートセンター 石垣センター長、菊池
- 6 傍聴者 21名 内訳：発表団体5名（3団体）、一般市民12名、職員4名
- 7 概要
（1）開会

（2）市長挨拶

[市長]皆さん、こんにちは。市長の笠井喜久雄でございます。

平成30年度白井市市民団体活動支援補助金 公開成果報告会&助成金講座の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

市では、第5次総合計画に基づき、市民参加・協働のまちづくりを推進しており、これから市民活動の活性化を図るため、市民活動団体の公益的な活動に対して市民団体活動支援補助金を交付し、市民活動団体の支援を行っているところでございます。

本日の成果報告会は、平成30年度に補助金の交付を受けた3団体より成果報告の発表がございしますが、団体の皆様から1年間の取り組みを通じまして、市民活動のPRをしていただきますとともに、お集まりの皆様には、市民活動の魅力を感じ取っていただければと思います。

また、本日は市民活動団体の安定的・継続発展的な活動と自立した団体運営を支援するため、独立行政法人福祉医療機構の渡真利先生をお招きし、民間助成金の仕組みや活用方法などを交えた助成金講座を開催いたします。

公益的な活動に取り組む市民活動団体の皆様におかれましては、活動資金面の問題というのは切っても切れない課題ですから、これを機会に是非参考にいただき、皆様にとって有意義な時間になりますことを願っております。

少し、私のお話をさせていただきますと、私は職員時代のうち7年間を市民活動や自

治会の分野で皆様と共に活動させていただき、市民活動の重要性と市民自治の重要性は肌で感じているところでございます。

今回、市長選に出ましたのも、もっと地域活動や市民自治の取り組みを前に進めていきたいという思いから、今回立候補させていただきまして、当選をさせていただきました。

ですから、これからも皆さんの力をお借りしながら、この白井市をもっと盛り上げて、どこにも負けないような白井市を築いていきたいと思っております。

今日はいろいろな地域活動をされている方の講演、講座をお聞きになって、自分の中に入れていただいて、地域活動に活用いただけたらと存じます。

このまちはまだまだ可能性があります。それは人材だったり、いろいろな資源がございましたが、それらを十分に活用しながら、まちづくりの発展に尽くしていきたいと存じます。

結びになりますが、市民活動推進委員の皆様と、本日いらっしゃっている皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、簡単ではございますが、わたくしの挨拶といたします。今日はよろしくお願ひします。

(3) 趣旨・進行説明

[事務局] ありがとうございます。市では、地域課題の解決を図り市民主体のまちづくりと活力ある地域社会の実現を目指すために、公益的な活動を行っている団体さん、市民活動団体さんを対象に市民団体活動支援補助金を交付しております。

今回、平成30年度につきましては、3団体からの申請がありまして、30年度中にさまざまな公益的な活動が行われました。本報告会では、30年度に補助金を使って活動された団体さんの成果を確認させていただくとともに、団体さんから市民の皆様へ活動のPRをすることを目的としています。本日の発表をお聞きいただいて、参加していただいております市民の皆様には、ぜひ市民活動の魅力を感じる機会になりますことを願っております。

三つの団体さんから、それぞれ活動成果報告が終わった後に、今度は講座形式で、市民活動の助成金に関する講座を開催いたします。お金の話というのは、先ほど市長からもありましたように、こういう公益的な活動を行っている皆さんにとっては切っても切れない重要な課題ですから、これから市民活動団体の安定的・継続的な活動と自立した団体運営を支援するために、独立行政法人福祉医療機構の渡真利先生、市民活動団体さんの間では、WAM助成なんて聞いたことがある方もいらっしゃるかと思うのですが、福祉医療機構の先生をお招きして、民間助成金の仕組みや活用など、ご講演いただきます。

というわけで、本日は、公開成果報告会と助成金講座と二本立てでお送りいたしますので、皆様にとって実りのある会であることを願っております。

それでは早速、平成30年度市民団体活動支援補助金の公開成果報告会に移りたいと思います。お手元に本日お配りをしております平成30年度白井市市民団体活動支援補助金公開成果報告会&助成金講座、左上ホチキスでとめてある資料をごらんください。

簡単に、発表の流れについてご説明いたします。

本日の成果報告会は、各団体さん、発表が10分間、それに対して質疑が5分間という形になっております。時間経過については、事務局からベルでお知らせをいたします。5分経過しましたらベルを1回鳴らせていただきます。残り1分でベルを2回鳴らせていただきまして、時間となりましたら再度1回ベルを鳴らしますので、そこで説明は終了というような形になっております。ベルが1回鳴った際に話していることを話し終えて、説明終了というような形になります。

質疑については、市民活動推進委員会、この前の席に座っている方が、市民活動推進委員の委員長のもと市民活動推進委員会の委員から質疑を行わせていただきます。これも5分間なので、4分経過したらベルが1回鳴らせていただいて、5分たちましたらまたベルを鳴らせていただきますので、鳴った際に質問していることを回答し終えて終了という形になっておりますので、今回ご観覧いただいている方については、質問というのはいけませんので、あらかじめご了承ください。発表の流れに関しては、以上です。

最後に一つお願いがあるのですけれども、場内で発表されている団体さん、発表状況なんかを写真撮影をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。場内の方で、もし写真がということあれば、事務局のほうに言っていただければと思います。また、ご来場されている方でスマホなどで撮影される方は、公開成果報告会の妨げにならない程度でお願いしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(4) 補助金交付団体からの成果報告（発表10分+質疑5分）

団体名：ステップ

事業名：学習支援ステップ

【発表】

[発表者(ステップ)] 学習支援団体ステップ代表の〇〇でございます。座ってお話をさせていただきます。

私どもの活動内容については、1ページから4ページの中で書いてありますので、概略でその辺のところをお話しして、少し具体的なお話をしたいと思います。

まず、事業は何をやっているかという、経済的な理由等で支援が必要な主に中学生ですが、そういう子どもへ学習支援をするということでやっております。ことしで3年目になりました。通年やり始めてから3年目です。1年目、2年目、1年目は7万円の補助を受け

て、去年は2年目で10万円の補助金を受けてと。ついでに申し上げますと、本年度も16万の補助を申請して通っております。

去年1年間の活動の概要についてのお話を2ページ目、3ページ目を使ってお話しさせていただきます。

事業目的は、読んでいただければいいかと思うのですが、つまり需要があるということです。そういう学習支援を求めているお子さんがいると、ご家庭があるということで、通年の活動をやっています。

内容とは言いますと、1年を通じて、白井駅前センターの研修室や視聴覚室を使って、市内の中学生に大体数学、英語が主ですが、場合によっては国語も、あるいは試験前だと理科も社会もという形で、子供の勉強の助けをするということでございます。受講生は大体10人ちょっとで、教える側が日によって違うのですが、登録しているメンバーは10名で、その都度来られるかどうかということで、六、七名ぐらいで普段やっています。ですから、少なれば1対1で、場合によっては二、三人を相手にという形でございます。週2回で毎週火曜と金曜日、駅前センターの、実は前期、後期で分けているのが、7月までは3年生を含めて部活動がありますので、開始を遅くして、ただ7時から9時までという余りにも長過ぎますので、夜遅いのも何です、30分早く切り上げています。9月以降は3年生が部活を終えているということで、5時始まりで3時間と。8月は別途組んでいます。

出席率なのですが、下に出ていますように、年間85回やって独自の受講生は736人、ほぼ9割方参加していると。ただ8月については参加率が悪いのです。なぜかという、8月は夜じゃなくて、9時から12時と午前中を使って、そしてまた駅前センターが月曜日は休みですので、火曜日から土曜日までと、それも8月の前半と後半という形でやるのですが、何が都合悪いかというと、ご家庭の事情で旅行に行くとか何かあります。あと学校の部活動がまだ1年生はあります。そしてまた土曜日が学校説明会等で、3年生もそちらのほうに行かなくちゃいけないということで8月の出席率が悪いのですが、それでも通算すると9割を超える3カ月で、ですから普段はほぼ休みがないと、突然のお休みもなくという形で、受講生も熱心に参加しているという形でございます。

教える側は、私なんかもそうなのですが、かつて教員だったOBが主です。あと塾の講師をやっている方とか、あと、また別に英語に堪能な方と。私なんかも含めて、大体高齢者が多いです。そこで課題として、大学生に参加してもらえないかというのが、裏側にあるのですが、そんな形で。

そして市民への告知方法ですが、市の広報、そしてまた駅前センターや一番地元で近い南中へのポスターの掲示と、あるいは準要保護、要保護のご家庭には、別途4月になって、また新中学1年生に関しては3月中に送られるようなのですが、そうではない在生学生については、4月になってからご家庭のほうにそういう形で配付されて募っているという形でございます。

我々が、学習が足りないのじゃないかなと、勉強の仕方がわからないのじゃないかなという子供を相手にするのですが、中には、学校に一定以上、不登校というのでしょうか、かつて1年ぐらい学校に行っていなかったのだという子も来ることがあります。それはただ単に空白があっただけということだと我々のほうでも対処ができるのですが、それ以外の発達障害、その他の問題を抱えている子供ですと、我々そんな専門的な教育を受けていませんので、そこに関しては扱いかねています。できないと。どうしたらいいものだろうかということで、これは県の教育委員会なり市の教育委員会側の出番じゃないだろうか、あるいはそこの連絡が必要なんじゃないかという形でやっております。

実際、1年間やってどうだったのかというと、昨年度は受講生が最終的に11名で、地元の南山中学校が10名、それ以外に大山口中学校、ことしはそれ以外に白井中学と七次台中学からも参加があります。ですから、少し需要が広範囲に広がっているという感じがあるのですが、去年に関してはこんな形で、3年生4名、2年生4名、1年生4名という形。数が合いませんね、2年生3名で11名です。3年生は全員希望の高校に、私学を含めてですが進学しました。

今後の課題ということで申し上げますと、一番大きいのが、場所の確保とお金の問題だったのですが、実は今年度から、毎週火曜日だけは優先的に場所を確保できるという形がとられるようになりました。ですから火曜日だけ抽選なしで場所を確保できると。金曜日に関しては、抽選で当たらないと場所は使えないという形でございます。

もう一つ、会場費ですが、去年は会計報告すると、9万円近くが会場費、つまり10万円の補助金をいただいても、ほぼ会場費で全部なくなると、こういう実態、実情がございませぬ。

もう一つが、講師陣の充実ということで、もっと若い人が、大学生が少し使命感を持って来てもらえるといいのだがと。それには、交通費なり講師料なりを若干なりとも出さないと来てくれないのじゃないかということで、ことしの補助金の申請では、その分大幅に申請してあります。ただ、これは来なければお返しするという形になるのですが、それはそれでいいかと思えます。

もう一つは、市民のニーズがどこにあるのかというのが、実は去年、市が中学2年生と小学5年生の保護者のところにアンケートをやっているわけです。その結果がまだ公表されていないのですが、一部私どもが手に入れた資料によりますと、例えば中学校2年生の保護者が、無料の学習支援に参加させたいかという質問に対して、はいという答えが76.5%、いいえが20%。母体が353という数字なのですが、七、八割の方がそういう無料の学習支援を必要としているという数字がどうも出ているようなのですが、この全貌を市で実施したアンケートですので、ぜひ早目に公にさせていただいて、どれだけのニーズがあるのかということをお私どももきちんと知りたいということでございます。

これが課題の一つなのですが、そこで実は私どものこの会の活動も、来年もう1回申請

すると、そこで切れます。その後どうするのかという話で、我々としては、最終的にはこれは市の事業じゃないのかというのが、その下の3ページの真ん中辺の話です。いずれは市でやってほしいのだと。全国的にも、文科省がこれは市町村でやって、半額は補助しますよという形で、たしか全体の5割ぐらいの市町村がやっている。この近くでも鎌ヶ谷とか松戸とかでやっているということですので、ぜひ白井もと思うのですが、そこで、きょうは市長さんがいらっしゃるので、広報しろいにも白井市長の抱負の中に、「もっと子育て教育のまちに」と。読み上げますと、学童保育と放課後子供教室の充実と再編と。市長さんのこの思いと我々がやっていることがつながるのか、つながらないのか、あるいはどうやってつなげるのかというのが今後、詰めていきたいなということでございます。よろしくお願ひします。

もう一つ、きょういらっしゃる方へのお願いは、4ページ目にあるのですが、財源の形でいうと、賛助会員という形で一口1,000円でご協力いただけないかということで、昨年度94口、9万4,000円のお金が集まりました。その前の年は27口だったのですが、少しは我々の活動についてのご理解が深まってきているのかなと、そういう形でいえば、ここにいらっしゃる皆さんからもぜひご協力のほどをお願いしたいということをお願いして、終わりにします。

どうもお世話さまでした。

【質疑】

[委員長] どうもありがとうございました。昨年に引き続き、熱いプレゼンをいただきまして、本当にありがとうございます。

そうしましたら、委員のほうから幾つかご質問させていただきますので、よろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。

[委員] ○○と言います。よろしくお願ひします。二つ質問させてください。

活動発展型ということで申請が通っているのですが、3年目になるそうですけれども、どの部分が発展してきたのか具体的なお話を聞きたいです。1点目です。

2点目、最後にお話しいただいた賛助会員のことなのですが、94口もあるということで、どのような方が援助してくださっているのかなというのを知りたいです。お願ひします。

[発表者(ステップ)] 発展型といいますと、初期は南山中学校のみの参加者でした。去年は大山口の子供が来てくれて、ことしは七次台、白井中学校という形で応募者の幅が広がっていると。それは我々のやっている事柄がそれなりに広がって伝わっているのかなという形があるかと思ひます。

もっと欲を言うと、中学校での学習の難しさというのがあるわけですが、もう一つ前の段階、小学校の9歳の壁という言い方をするようなのですが、小数や分数が出たところでつまずいていくと。その部分をなるべく早くカバーしたほうが実際にはいいの

だろうと思うのですけれども、そこまで実際のところ我々も手が回らなくて、中学校の義務教育が終えるところで、何とか初歩的なところだけはクリアしたいということでございまして、まだ広がり方としては初歩的なところだろうと。中学生のみということはそういうことだろうというふうに我々は自覚しているところです。将来的には、近隣の市町村でも小学生を相手にすると、まず中学校が始まって、その後小学生にというのがどうも一つのパターンのようなのですが、そういう形の広がりを想定しています。これが一つです。

二つ目は、お金の入りというのは、私が地区社会福祉協議会というところで推進員という形でやっけていまして、以前は中学校単位で南山中学校のところをやっけていて、それが2年前から小学校単位で分かりますね。そして今、私は池の上小学校区にいますのですが、そこで張り紙をさせていただいて、賛助会員募集と。また、前に所属していた南山小学校のところでもそれを張らせていただいて、連絡先は私のところという形で、そこでわざわざ届けてくれる方もいらっしゃるし、私がいるところでそういう形でもあります。

あと実は、市役所にも張らせていただいたのですが、余り反応はありません。営業努力が足りない感じもしないでもないのですが、大体そんな狭い範囲で、人によっては、工業団地のところに行って少し活動したらどうかと、そういうアドバイスをしてくださる方もいらっしゃるのですが、余りにも私はそういう方面に知り合いがないものですから、まだ広がりはいささかのじゃないかなというふうに自覚しています。

以上です。

[委員長] 9万4,000円、非常に立派な実績だと思いますけれども。

ほかいかがでしょうか。

よろしく申し上げます。

[委員] ○○です。実は昨年度、卒業論文を書く学生がお世話になりました。本当にありがとうございました。そのご挨拶で見させていただいたのですけれども、本当に丁寧にコーディネートされていて、各教科、それから各子供のニーズに寄り添う形でされていて、本当にしっかりされているなという印象を受けました。

この活動は、経済的な理由とかの家庭の事情で、困難を抱えた子供たちを社会に参加させていくというか、参加することを支援していく、社会的な包摂に貢献するということで、本当に重要な活動だと思います。

一つ質問は、今後の展開として、市の事業として問題に取り組むことを強く要望するということで、確かに市民活動だけでは、子供は支払い能力はないので、何らかの公的な支援が必要な、あるいはするに十分値する活動だと思うのですけれども、この意義というのは、市が直営でということか、それともこれまで皆さんがされてきた経験を生かして、担い手は市民がということなのかというあたりで、ぜひ市民がずっと担い手であってほしいなというような期待があるのですけれども、そこら辺はどんなイメージなのか。

[委員長] これで終わりとしします。お答えをお願いします。

[発表者(ステップ)] これは、市がどういうふうにお考えなのかということに大きくよるので、よくわからないのですが、市によっては、ある団体に丸投げする形で、そこに全部お任せでというのもあるやに思います。そういうやり方も一つかと思えますし、ただ私どもといっても、任意のわけのわからない団体だとすれば、きちんと法人のような組織をきちんと組織化して、そこに委託という形があるとすれば、それも一つの方法かなというふうには思います。

いずれにしても、市とのやりとりをこれから1年ぐらいかけてですが、1年、2年かけて今後どういうふうにやったら、こういう学習支援という事業は、市として意味のある公平な公正な活動になっていくのかということは、一市民としても大きな課題だというふうと考えております。

[委員長] では、時間となりましたので、本当にきょうもありがとうございました。

団体名：NPO法人白井助け合いネット

事業名：介護施設ふれあいサロン事業

【発表】

[発表者(NPO法人白井助け合いネット)] 皆さん、こんにちは。私、NPO法人白井助け合いネットの代表〇〇でございます。よろしくお願ひいたします。

[発表者(NPO法人白井助け合いネット)] 発表させていただきます。私、助け合いネットの事務局担当と第二事業部担当の〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

それでは、30年度の報告をさせていただきます。

実際には、この事業はサロンの事業でございます。サロンというのは、平成24年に市が地域福祉計画でつくりました「しろい支え愛プラン」というもののミニサロンという部類に入るものだと思います。これは地域ぐるみのネットワークに参加して、積極的に相互交流を地域で図りましょうというのが事業計画になっていまして、ミニサロンの運営は、福祉の事業体がやってほしいという計画で設立をされております。

今、申し上げましたサロンなのですが、実際には参加対象の方は、白井市民の方であれば誰でも結構です。参加費は100円のみということで、飲み物としてはコーヒー、紅茶、緑茶、麦茶などを提供してございまして、そのほかイベントでは音楽を聴いたり、歌ったり、基本的には折り紙を主体に作業等をして、あとは体を動かす体操を組み込んでおります。

この事業の目的といたしましては、こういう地域社会の急激な高齢化だとか、あるいは子育てのお母さんたちの悩みだとか、こういうものを地域が抱えておりますけれども、私どものほうは今のよう形で、実際にサロンというものの運営で高齢化の方たちを対象にしております。実際にはこのサロンの継続の効果というのは、基本的にはかなり達成で

きたのではないかと。

この内容としましては、さつきの里はリハビリルーム、それからリハモードさん、菊華園さん等はデイサービスの部屋を使わせていただいて、告知方法としては、チラシを配る、各公民館と、それから知人に配っていると。内容としましては、大体1時受け付けで3時過ぎまで約2時間弱のプログラムでやります。頭の体操、それから折り紙、体調トレーニング、梨トレ体操。実際に担当しますのは、当団体の会員が6名、協力団体として、生き生きライフの方3ないし5名、協力は市役所の保健課さんと実施します施設の職員さん1ないし3名、あとは出演の音楽、芸能ボランティア、個人の方たちということになっておりまして、実際にユーカリアンサンブルさんだとかS I N C Sさんだとか、こういう形で参加をお願いして、ありがたくやっていただいております。

上期の実績としましては、さつきの里4月18日、28名、これはかぶとの折り紙をつくってかぶっていただいて、写真撮影をしました。次は、さつきの里、これはお祭りに参加して飲み物を提供しました。10月はさつきの里、11月がリハモードヴィラ2回、12月がクリスマス、さつきの里、それから1月リハモードヴィラ、菊華園、2月がアンスリール、さつきの里。大体見ていただくように、少ないときでも10名ぐらいの参加、多いときは20名ぐらいでございますが、これで継続をしてやらせていただいております。

この中で、実際にはいろいろ100円の会費をいただいて運営するのですが、場所が有料なところは100円の会費だけでは運営できませんので、各施設さんを無料で使わせていただくということで継続すると。継続は力なりということで、実質30年度は菊華園さんとアンスリールさん、この2カ所が新しいところで出てきております。

それから、大体今で5分ちょっと過ぎたぐらいでございますので、実質の写真を見ていただきかけたのですけれども、ここにあるのかな、ごめんなさい。

それから、これはクリスマスで折り紙、リースをつくったところです。あとは、これはさつきの里さんに集まっていたいただいた皆さんが、楽トレ体操、それから体を動かしているところです。もう一つトレーニングがあるのですが、これがさつきの里さんのトレーニングルームなのですが、レッドロープというので、ロープにつかまりながら体を預けますので、皆さんこれは非常に人気で、必ずさつきの里さんのサロンのときには、これ目当てで皆さんおいでになる。

こんな感じで、実際のサロンは運営をしております。折り紙では、各月ごとにテーマを変えて、先ほどご説明しましたように5月前はかぶとで、かぶとをかぶっていただいて皆さんの写真を撮ったのですが、ちょっと見当たりませんので、この辺でご質問のほうに移らせていただければと思います。

【質疑】

[委員長] どうもありがとうございました。そうしましたら委員からの質問をさせていただきます。皆さん、いかがでしょうか。

[委員] こんにちは、〇〇と申します。孤独になりがちな高齢者の方だとか子育て中の方に集いの場であったり語り合う場をつくったり、とてもいい活動だと思うのですが、内容の中でレッドロープがとても人気だったというお話なのですけれども、このレッドロープが人気のこれ目当てにいらっしゃった方がたくさんいらっしゃったということなのですけれども、この人気の理由を教えてくださいてもよろしいでしょうか。

[委員長] よろしいですか。お願いできますか。

[発表者（NPO法人白井助け合いネット）] よく聞き取れなかったので、申しわけないです。

[委員長] もう1回。

[委員]申しわけありません。〇〇と申しますけれども、高齢者の方ですとか、孤独になりがちな方ですとか、子育て中のお母さんや子供たちの集いの場であったり、楽しめたり体を動かす場をつくるというのは、とてもすばらしい活動だと思うのですが、ちょっと教えていただきたいと思ひまして、一番最後のレッドロープを使った集まりというの、これ一番人気でこれを目当てにいらっしゃる方がたくさんいたというお話だったので、私も今とても興味を持ちまして、人気の理由を教えてくださいたいと思ひます。

[発表者（NPO法人白井助け合いネット）] これは、さつきの里さんのリハビリルームだけなので、サロンをやらせていただいているのもこのルームなのですが、折り紙の時間に半分の方がレッドロープで、さつきの里さんのリハビリの指導員の方必ずついていただいて、大体10分から15分ぐらいなのですが、全部指導していただきます。ですから、おやりになった方で、この前は体が痛かったけれども今度は大丈夫だったわというような方もいらして、さつきの里さんだけなのですが、これが目当てでお見えになる方が多いです。

やはり体を預けて、リハビリの指導員さんが、実際にそこでデイサービスの方だとか、入居の方の指導をされているのと同じで指導されるので、これはとてもいいプログラムだなというふうに、毎回組み込んでおります。

[委員] わかりました。ありがとうございました。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

お願いします。

[委員] この事業に関してなのですが、施設の方と近隣の方との交流というのもうたっていていらっしゃってと思うのですが、割合的にはどうなのですか。参加者の割合は。

[発表者（NPO法人白井助け合いネット）] 初めて昨年やらせていただいた菊華園さんと

アンスリールさんは、地域の方は、まだ2回目ぐらいなのでゼロです。施設の方の通いのデイサービスの方だけです。さつきの里さんの場合は、外部の方が六、七割です。あとリハモードさんも内部の方が多いです。内部7割ぐらい、外からの方が3割ぐらいということです。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

[委員] ○○です。助け合いネットさん、団体の名前にネットとあるように、地域のいろいろな資源をつないでいるというところがすばらしいなというふうに思いました。社会福祉施設で閉じちゃうのじゃなくて、地域に開放するとか、それからサロンを行うのに、いろいろな音楽の団体とかボランティアさんに声をかけているということで、これはどうやって見つけていらっしゃるのですか。いろいろなところにお声かけするって結構大変だと思うのですが、どんなふうにお声かけというのを続けていらっしゃるのですか。

[発表者（NPO法人白井助け合いネット）] 皆さんにお願いしておりますのは、知人の方頼りです。なるべくバリエーションを変えようということでは考えているのですが、なかなか協力いただける方は少ないので、ただローテーションはできる範囲でなるべく新しい方をお願いしております。

[委員] お声かけするということですね、ありがとうございます。

[委員長] そうでしたら、時間となりましたので、発表どうもありがとうございました。

団体名：ふじ元気ひろば

事業名：子ども・子育て世代・高齢者・障がい者等への支援交流事業

【発表】

[発表者（ふじ元気ひろば）] ふじ元気ひろばの代表の○○です。座ったままでご説明させていただきます。よろしく願いいたします。

お手元に資料が配られていると思いますが、短い期間ですので、ほとんど読み上げる状態になってくるとと思いますが、よろしく願いしたいと思います。

そもそも事業の目的が、始めて3年になるのですが、西白井のセンターで行われております一月に1回の社会福祉協議会が主催する「地域ぐるみネットワークふれあい会議」という会議がございまして、その中で第三小学校地域でのいろいろ問題点が討議されたのですが、その中で共働き家庭の子の居場所だとか世代の格差が結構ありまして、高齢者と障害者の孤立と支え合いが問題提起されました。

地域的には、昭和の経済の成長期に入ってから高齡化している方々と、新たにここ10年以内に建売がたくさん建ったものですから、新興の住民の方々が大変ふえておりま

して、私どもも本業は保育園なのですが、そこへ来られている方たちとの交流がうまくできていないということでありまして、お祭りがあるのですけれども、そのお祭りの準備をする方々がだんだん高齢化していくというところもあって、若い人たちにできるだけ入ってもらいたいなという願いもあって、ちょっとやってみようかなというところで1年目から始めました。

1年目は7万円のご支援をいただきまして、今回30年度は2年目でして、21万ほどいただいたわけですが、まず目標として、子供、高齢者、障害者の支え合いと世代間交流を通した伝承遊びをやるかということ、2番目に野菜栽培による食育の推進と野外活動での自然との触れ合いができればなということ、3番目に共働き家庭の子供の居場所づくりが必要かなというふうに感じたこと、4番目に食事に困っている人たちへの援助というふうなことで、なかなか白井市は6万ちょっとの町の中で、あんまり貧困という言葉を表に出すと、非常に集まりづらいとか入りづらいという部分もあって、いろいろ市の担当窓口の方々にご協力いただいて背中を押していただいて、参加していただいている方たちもいるのですけれども、あんまりそのところは色を出さないような形で、あえてやっている状況であります。

事業の内容としては、毎月1回ということで、時に2回になる場合もありますが、富士地区の畑・保育園の施設、1年に何回か富士センターをお借りしてやっているのと、地域のグループホームの愛の家というところがございまして、そこの方々は行事のたびに来ていただいているので、9月はそちらに出向いてやろうかと、あと12月に畑につくったソバがあるものですから、それをお持ちして、年越しそばを愛の家で振る舞うというふうな行事もやっております。

対象は、市内の子供たちから高齢者、あと障害のある方、それと子育て中の保護者。できるだけ日曜日にやっております、平日保育園でやっている子育ての施設があるのですが、そこは週に1回、ほとんどお母さんとお子さんが来られているのです。お父さんの参加というのはなかなかないので、できるだけ日曜日に催して、お父さんも参加していただくというふうな形の配慮はしております。

事業を実施した体制なのですが、ボランティアさんと地区社協、第三小学校の地区社協の方、民生委員、あとは音楽グループの方に来ていただく、それと時に保育園の職員に手助けしていただいたり、グループホームの職員さんにも手伝っていただいております。それと白井市の社協の方、あるいは健康福祉課の方、子育て支援課の方で地域の情報を持っておられる方に手助けをしていただいて成り立っております。

告知の方法なのですが、公的施設、センター、あるいは学校とか学童クラブにチラシを持って行って張っていただくとか、ミニコミ誌に持ち込んで出していただくとか、あとは自分のところのホームページに掲載して、時にポスティングをして歩いたりとか、そういう場合もあります。

問題と対応策なのですが、外でやる行事なものですから、雨天に左右される部分と、こ
としは2月にインフルエンザの流行で2月の行事は中止を余儀なくされまして、5月26日、
先週に順延をして、せっかく出演していただくという方に準備していただいたわけです
ので、延ばしていただいて26日に終わりました。

3月予定のジャガイモ植えは、やはり雨天のため中止、雨天というのはわかっていたの
で、前日に収穫するものがあつたので、それは収穫しておいて、当日来られた方に野菜を
配ったりとかしました。ジャガイモ植えは、今度保育園の園児に手伝っていただいて後日
行いました。

事業成果として、毎月の行事を楽しみにしていただいている方もおまして、特に高齢
者の方は、小さい子供さんと触れ合うということが非常に楽しみにしておられるようで、
毎月来ていただいて、2年目で地域にやっと根差したかなというふうな感じはしております。

課題としては、無償ボランティアを集める限界を感じておりまして、なかなかそのと
ころが難しいというところで、毎年毎年、畑の作業というのは天候に左右されますので労
力が必要なのですが、なかなか募集しても集まらないというところが今、壁として感じて
おります。

これからの展望なのですが、31年度も引き続き活動発展型の支援を受けるようになり
まして、今まで通りの活動ができるようになりましたけれども、組織のスタッフの増員や、
この先労力の確保の検討が必要だというふうに思っています。それと新たな支援先への
アプローチをして我々の活動を理解していただき、次に考えている食品ロスをなくす活
動にしたいというようなことも思っております、この地域が子育てしやすく住みやす
く老後も暮らしやすいまちとして、多くの方に住んでみたいまちとして思われるような
活動を続けていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

【質疑】

[委員長] ありがとうございます。そうしましたら、また委員のほうから質問させてい
ただきますので、よろしく願いいたします。

いかがでしょうか。

[委員] 目標が四つあって、それを継続しているということは、とても素晴らしいこと
だなお聞きしました。お話の中にもあつたのですが、ボランティアさんで支えられてい
ると思うのですが、今現在やってかかわっていらっしゃるボランティアさんというのは、
どのような年代のどのような方が実際動いていらっしゃるのですか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] 地域の高齢者を支える方は同じぐらいの年代の方が、民生
委員であつたりそういう方になると、ほとんど同年代の方で、大体5人ぐらいの方がいつ

も来ていただいております。地区社協の方が主体になるのですけれども、あとは時に役所の職員の方が、特殊なケースがあったりすると一緒に来ていただいたりとかしていただいて、支えてもらっております。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。マイクを回していただいて。

[委員] ○○と申します。よろしく願いいたします。済みません、私の読み込みが弱いのだと思うのですけれども、これは参加を希望される方の受け付けとかというのはどういうふうになるのでしょうか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] 連絡先は、元気ひろばのホームページを開いて、そこへアクセスしていただく方もございますし、直接、園の電話番号を書いてあるのと私の携帯の電話番号を掲載しておりますので、直接申し込んでいただいたり、そんな形でやらせていただいております。

[委員] 当日、行っちゃうなんていうことも可能なのですか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] 全然それは構いませんので。食事の用意も例えば畑に10時集合といったときに、10時に大体そこで人数のカウントができますので、そこから私が園の調理場をつくっていますので、電話したり、何人ねとかいう形でやっておりますので、食べることについては余り、あなたは来ちゃだめよとか、そういうことは一切ございません。

[委員] ご苦労さまです。

[委員長] ほかはいかがでしょうか。

先、○○さんお願いします。

[委員] ○○と申します。元気食堂というのがありますけれども、これは園のほうで全部やっていらっしゃるのですか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] 衛生の問題が懸念されるので、やはり調理だけは、うちの園の調理師と栄養士2人に任せて、つくるのは2人だけに限ってやっている。ただ、屋外でバーベキューになると、それは確実に熱を通してもらうということしかないのですけれども、普段のそれ以外のもの、餅をついたり、あとはカレーをつくったりとかする作業については、保育園の栄養士さんたちにやってもらっております。

[委員] なぜお伺いしたかといいますと、お年寄りと、保育園でしたっけ、座るところがちっちゃいかなと。隣がたしか富士センターだったと思いましたが、富士センターは、食堂はなかったですか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] 富士センターは調理場はあるのですけれども、調理場で調理したもので、基本的には厳密に言うと、外で食べちゃだめだという決まりが。

[委員] そうじゃなくて、中が大きな広場というか部屋があって、そこで食べられたら、保育園だと座るといっているのかなとちょっと思ったので。

[発表者(ふじ元気ひろば)] でも、どうしても高齢者の方で園児が座る椅子じゃ座れないという方がいらっしゃるのです。それは折りたたみの椅子を持ってきて座っていただいたりなんかはしています。

[委員長] よろしいですか。

[委員] 保育園という社会福祉施設の開放と多世代の地域づくりということで、重要な活動だというふうに伺っておりました。

多世代をつないでいくとか、それからいろいろな方をつないでいくときに、いろいろな活動をされているのですけれども、つながりやすい活動ってあるのかなとか、あるいはつなげていく工夫みたいなコーディネートとか、何かそういうのってあるのですか。

[発表者(ふじ元気ひろば)] いろいろな思いでみんなやっているのですけれども、縦の糸と横の糸がなかなかうまくならない場合もございます。幸いなことに、31年度から富士地区がモデル地区になったのです。この先、多分15団体ぐらいがそこのところに参画してくると思いますので、もっと効率よく動けるような状況がつかれるかなというふうに思っております。

[委員] モデル地区というのは何でしょうか。

[委員] 第三小学校区の。

[発表者(ふじ元気ひろば)] よろしいですか。

[委員] わかりました。ちょっと聞いてピンとこなくて、時間がなくて済みませんでした。

[委員長] ということで、時間となりましたので、今年度もどうもありがとうございました。

(5) 講評 市民活動推進委員会 委員長

[委員長] 本当に皆さん、どうも発表お疲れさまでした。ありがとうございました。今回の団体さんは、いずれの団体さんも去年1回ご発表されている団体さんでしたけれども、本当にそれぞれの団体さん、発展型にふさわしいといえますか、広がりが生まれていらっしゃるって、素晴らしいなと思いました。

多少、講評ということですのでコメントをさせていただこうと思うのですが、まずステップさんにつきましては、本当に地道に活動をされていらっしゃるって、成果といえますか、結果のほうも3年生が全員希望の高校に進学されたりとか、すごく出席率が高いということで、子供たちも行って嫌なところには9割も行かないと思いますので、いかにステップさんの場が子供たちにとって大事な場になっているか、行くかいのある場になっているかというのが、出席率でも出てくるんじゃないかなと思いますし、活動自体も、中学校が白井と七次台についても広がっているということで、非常に素晴らしいと思います。

あと、いろいろな側面から、活動はすごく評価できるのじゃないかなと思うのですけれども、やっている内容も素晴らしいですし、あとかかわっている方々が教員のOBの方とか、そういったご自身のスキルや能力を生かして、次世代の子供たちにそういったご支援をされているという点ですとか、ご質問でも委員からありましたけれども、賛助会費として94口、9万4,000円という数字は、なかなか普通の市民活動団体の方が呼びかけて集まる金額としては、すごく素晴らしい実績だなと。そう簡単にこんな9万4,000円も集まりませんので、それは皆さんの活動が地域の方々から頑張っただけと評価されているからこそ、これだけの寄附が集まっていると思いますので、この調子で頑張っていたきたいと思います。

最後に、ちょうど市長もいらっしゃったので、お話ありましたけれども、学習支援事業としての市の直轄の事業になるか、委託に出すのか、共同事業としてやるのか、いろいろやり方はあるとは思いますが、自分の団体でできるところと、政策提言といいますか、市のほうに対して、こういったアドボカシーをされているというのも、これは非常に意味、NPOの役割としてよく言われるサービスの提供とアドボカシーという二つの機能を本当に体現されていて、いいことだなと思いました。

続きまして、助け合いネットさんのほうなのですけれども、委員からの質問にもありましたとおり、施設をうまく生かしたサロン事業ということで、一般的にサロンというと集会所とか公民館とか、そういったところをイメージするところなのですが、さつきの里さんですか、レッドロープが大人気というようなこともありました。そういった地域にある福祉資源といいますか、そういった資源をうまく生かしてサロンを実施されているということで、残念ながら31年度は、補助金には採択は難しかったのですが、ぜひユニークな取り組みを少し財源の確保、この後ご講演いただく渡真利さんの話などもご参考にいただきながら、何とか資金を確保していただいて、今年度も引き続きぜひユニークな施設の入所者の方と地域の高齢者の方の触れ合いというサロンを実施していただければなと思った次第です。

最後のふじ元気ひろばさんなのですけれども、私も実は家庭菜園でジャガイモとかいろいろ育てているので、雨が降ったり病気にかかっちゃったりとか、そういう作物のご苦労はよくわかりました。

あと、これは昨年度余りよく聞いていなかったのですが、グループホームさんで愛の家に伺ったり、あるいはそこの方々にもお手伝いいただいたりということで、まさに本当に多世代の交流が図られていらっしゃるということで、それはまさに地域福祉の実現というところで非常に今後も楽しみなことだと思っております。

個人的には、食品ロスをなくす活動というのも最後に触れられていましたけれども、いわゆるフードバンク的な活動と聞いていいのですか。そういう感じですか。ちょうど私も国会のほうで、食品ロス削減推進法案という法律がこの前成立したのですが、そういった

もののロビーをしていた関係で、こういった食品ロスというのが今、全国で646万トン毎年発生していると言われていて、非常に社会問題化していると、ようやくコンビニさんが値引きをするようになったりとか、きのうのニュースですか、カルビーさんがポテトチップスの賞味期限を延ばすとか、そういう社会全体の動きとしても食品ロス、あるいはフードバンクという活動が注目されてきておりますので、ぜひ引き続き今年度の活動も期待しております。

そんなようなところで、以上講評とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

(6) 閉会

[事務局] ありがとうございました。

それでは、公開成果報告会についてはこれで終了とさせていただきます。最後に、発表された3団体に大きな拍手をお願いします。